

健康万歩計は、西北五医師会が、皆さんが健康で元気に過ごすために必要な情報を提供し、ドクターからのアドバイスを紹介するコーナーです。



おたふくかぜワクチンを接種しましょう！

こどもクリニックおとも 院長 小友 勇人 先生



ワクチン後進国といわれ続けた日本も、2013年以降、ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチン、水ぼうそうワクチン、B型肝炎ワクチン、ロタウイルスワクチンと次々に定期接種(公費負担)となりました。ヒトパピローマウイルスワクチン(子宮頸がんワクチン)もようやく「接種の積極的勧奨」が再開され、積極的な接種勧奨が差控えられていた期間に接種機会を逃した平成9年度から17年度生まれの方へのキャッチアップ接種も進んでいます。しかし、諸外国で定期接種に組み込まれていながら、いまだに日本では定期接種でないワクチンがいくつかあります。その代表がおたふくかぜワクチンです。

おたふくかぜにかかると、熱が出て、耳の下の耳下腺というところが腫れて痛くなる病気で、自然に治るといった印象があると思います。しかし、おたふくかぜには多くの合併症があります。有名なのが、無菌性髄膜炎です。約50人に1人の割合で起こり、強い頭痛や吐き気、嘔吐でとてもつらい思いをします。まれに脳炎を発症することがあり、障害が残ったり死亡したりすることもあります。思春期以降にかかった場合には、精巣炎や卵巣炎も心配されます。

あまり知られていませんが、重大な合併症に難聴があります。1,000人に1人程度の割合で永久的な感音性難聴になって、多くは片方のみですが、まれに両側性の場合もあります。日本耳鼻咽喉科学会は2018年に、2015年～2016年の2年間に少なくとも359人がおたふくかぜによって難聴になったと発表しました。

諸外国で定期接種が当たり前のおたふくかぜワクチンが、なぜか日本では任意接種で自己負担がかかります。しかし、合併症のリスクを考えるとぜひともワクチンを接種して予防したい病気です。適切な時期は、1歳時と就学前1年間の2回接種となります。MRワクチン(麻疹、風疹)と同時に接種するのが良いと思います。それ以外の時期でも、また小学生以上の成人においても、まだかかっていない方にはぜひワクチン接種をお勧めします。

「ワクチンさえ接種していれば、こんなことにはならなかったのに…」ということにならないためにワクチンで防げる病気はぜひ予防したいものです。

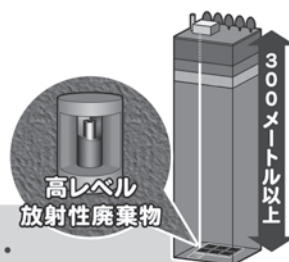


高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する 対話型全国説明会

2022年 **7/27** 水
18:00～20:00 受付17:30～

青森県観光物産館アスパム 5階 あすなろほか
青森駅 東口より徒歩約8分

参加
無料



「地層処分」とは…

原子力発電に伴い発生する放射能レベルの高い廃棄物(高レベル放射性廃棄物)を、私たちの生活環境に影響を与えないように、地下深くの安定した岩盤に埋設する処分方法です。

高レベル放射性廃棄物の最終処分の方法である「地層処分」の仕組みや、処分地の選定プロセス、地層処分の実現に向けた取組みなどについて、少人数での対話形式でご説明させていただきます。

本説明会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施したうえで開催いたします。
新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、リモートでの開催に変更する場合があります。

※申込受付は会場スペースなどを踏まえ先着順とさせていただきます。
※天候不良などの諸事情により、開催日程や開催方法等を変更する場合があります。

主催：経済産業省
資源エネルギー庁



お問い合わせ：原子力発電環境整備機構 地域交流部
TEL: 03-6371-4003 (平日10:00-17:00)

お申込みはWEBで
NUMO



◎ 広報有料広告

五所川原市を応援しよう!!